

レジメン登録フォーマット

申請年月日	令和5年11月28日		使用開始日		
登録診療科	乳腺外科		申請医師	小西宗治	化学療法委員会承認年月
レジメン名	フェスゴMA【維持】+パクリタキセル(3週1回)【2コース目以降】再発				
疾患名	乳がん		適応の備考	HER2陽性の手術不能又は再発乳がん	
適応分類	進行・再発				
1コース日数	21	日間	総コース数	有効な限り	コース
			催吐性リスク	軽度	
抗がん剤投与量・投与日 フェスゴMA day1、パクリタキセル175mg/m ² day1					
治療スケジュール・投与日程(投与日は●)					
投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
1	なし				
	皮下注射	フェスゴ配合皮下注【MA】	10 mL / body		●
調製後4時間以内に使用 5分以上かけて皮下投与					
2	主ルート	生食50mL	1 本 / body		●
	点滴静注	デキサート注6.6mg	2 本 / body	30分	●
		デキサート注1.65mg	2 本 / body		●
		ファモチジン注20mg	1 本 / body		●
3	主ルート	生食250mL	1 本 / body		●
	点滴静注	パクリタキセル注	175 mg / m ²	3時間	●
4	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5分	●
	点滴静注				
	経口投与	レスタミンコーワ錠	5 錠 / body		●
	パクリタキセル投与の30分前				

【投与上の注意】

パクリタキセル: 前投薬としてレスタミン5錠の内服、デキサート注、ファモチジン20mg静注が必要。
 パクリタキセル: DEHPフリー(フィルターつき)点滴セット使用。0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを使用し投与すること。
 パクリタキセル: アルコール不耐症がないことを確認する。

このレジメンは、フェスゴ(ベルツズマブ、トラスツズマブ)2回目以降の投与患者に使用する。

フェスゴ皮下注: 何らかの理由により予定された投与が遅れた場合には、以下のとおり投与することが望ましい。

①前回投与日から6週間未満のとき: 維持投与量(フェスゴ MA)を投与する。

②前回投与日から6週間以上のときには、改めて初回投与量(フェスゴ IN)を投与し、次回以降は維持投与量(フェスゴ MA)を3週間間隔で投与する。

フェスゴ皮下注: 初回投与時は、8分以上かけて大腿部に皮下投与、2回目以降は、5分以上かけて大腿部に皮下投与する。

フェスゴ皮下注: 大腿部以外への投与は避ける。

フェスゴ皮下注: 注射部位反応が報告されているため、同一箇所へ繰り返し注射することは避け、左右の大腿部に交互に投与する等、前回の注射部位から少なくとも2.5cm離す。

フェスゴ皮下注: 皮膚が敏感な部位、皮膚に異常のある部位(傷、発疹、発赤、硬結等)には注射しないこと。

フェスゴ皮下注: 初回投与時は30分の経過観察、2サイクル目以降は、Infusion reaction等の問題がなく、忍容性が良好であれば、観察時間は15分まで短縮可

・パージェタ+トラスツズマブ(IV)からフェスゴに切り替える場合

パージェタ+トラスツズマブ(IV)の直近の投与日から6週間未満のときにはフェスゴMA(維持投与量)を、6週間以上のときにはフェスゴIN(初回投与量)を投与し、その後は3週間毎にMA(維持投与量)を投与する。

・フェスゴからパージェタ+トラスツズマブ(IV)に切り替える場合

フェスゴの直近の投与日から6週間未満のときにはパージェタ、トラスツズマブともに維持投与量(パージェタ: 420mg、トラスツズマブ: 6mg/kg)を、6週間以上のときにはパージェタ、トラスツズマブともに初回投与量(パージェタ: 840mg、トラスツズマブ: 8mg/kg)を投与し、その後3週間毎に維持投与量を投与する。